

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

呉市立昭和中学校区 校番 16 学校名 呉市立昭和中学校

a 学校教育目標	自ら伸びる みんなで伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション) 夢を実現するために、主体的に学ぶ意欲を持ち、地域社会に貢献する人材の育成 (ビジョン) ①生徒の「生きる力」が育つ学校 ②生徒が安心して主体的に学び合い、学力が身につく学校 ③心を潤すことばが自然に行き交い、社会性が高まる学校 ④地域・保護者から信頼される学校
----------	---------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	学力向上については、「呉の学校教育」の柱となる「考える授業」づくりと、本中学校区で進める「聴いて 考えて つなげる授業」モデルの関連を図り、ICTの効果的な活用方法についても研究と実践を重ねてきたが、今年度も、更に基礎学力の定着や家庭学習の習慣化のためにも個別最適な学びの充実に取り組む必要がある。生徒指導については、「チーム『笑輪』」をキーワードに、安全・安心な学校づくりを組織的に推進することに取り組んできたが、自分や周りにいる人を大切にすること、将来の「夢」や「目標」を持ってない生徒や、学校に居場所を見出せない生徒も増えてきている。これらの現状を踏まえ、昨年度から取り組む「校内SSR指導員派遣授業」の充実をはじめ、より丁寧な生徒理解に努める中で一人一人の生徒に寄り添い、自尊感情の育成や将来への展望を持たせていく必要に迫られている。さらに、3年目となる新たな公立高等学校入学者選抜制度に対する成果と課題を踏まえ、キャリア教育の充実に取り組む中で「15歳の生徒に身に付けさせたい力」を見通しを持って計画的に育成していくことが求められる。 また、「働き方改革」の推進に係る呉市の指針を踏まえ、積極的な教職員間のコミュニケーションをより一層活性化させ、一人一人の教職員の願いや意見が尊重され、明るく活気ある「チーム『笑輪』」の学校組織体制を整備するとともに、学校の業務全般を視野に見据えたスクラップ・ビルドや、タブレットの活用を通じた組織的、効率的な業務遂行や業務改善を通して、教職員一人一人の実感を伴う「動きやすく動きがいのある職場づくり」を引き続き推進していく。
------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	「知識・技能」 「思考力・判断力・表現力」 「主体性・協働する力」
-------------	-----------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
★ ★ ★	学力の向上を図る。	【真】〈授業づくり〉継続的な授業改善に取り組む「考える授業づくり」を推進する。	全教職員による「聴いて 考えて つなげる授業」モデルの定着を通して、繋がりのある「考える授業づくり」の授業改善に取り組む。	生徒アンケート「授業中友だちの考えや意見をよく聴いています」の肯定的評価の割合  生徒アンケート「授業中、自分の考えや意見を分かりやすく説明しようとしています」の肯定的評価の割合	95%	89%	94%	B			
		基礎・基本の定着や個に応じた指導の充実を図る。	学力調査等の結果を踏まえた基礎・基本のドリル学習や個に応じた課題学習を行う。	定期試験における「30%未満」の生徒の割合	10%以下	12%	83%	B			
	★ ★ 中学生としての自覚と責任を持たせる。	「授業規則やりきる三則」を徹底し、中学生としての規範意識の向上を図る。	規律ある学校生活の確立に向けて、登校から下校までの時間を意識させ行動化を図る。	生徒アンケート「時間を守っています」の肯定的評価の割合	90%	99%	110%	A			
		身の回りの整理・整頓に努めさせ、落ち着いた学習環境づくりの統一化を図る。	中学生としての自覚を持たせ、服装や髪型等の身だしなみを整えさせる。	生徒アンケート「服装や髪型などの学校のルールを守っています」の肯定的評価の割合	90%	99%	110%	A			
★	豊かな感性や社会性を育む。	【真】〈居場所づくり〉生徒同士の共感的な人間関係づくりを推進し、自尊感情を育成する。	生徒相互の人間関係や居場所づくりを進める学級経営や教育相談活動を推進する。	生徒アンケート「学校へ行くのは楽しいと思う」生徒の割合  生徒アンケート「自分にはよいところがあると思っている」生徒の割合	90%	93%	103%	A			
		学校や地域、社会に貢献しようとする意欲と態度を育成する。	生徒の自己有用感や社会性を育む生徒会活動やボランティア活動、小中交流の取組を推進する。	生徒アンケート「自分の将来に夢や目標を持っている」生徒の割合  生徒アンケート「将来社会に貢献できる人間になりたいです」の肯定的評価の割合	90%	76%	84%	B			
業務改善	働きやすく動きがいのある職場づくりを推進する。	生徒と向き合う時間を確保する。	「部活動休養日」を活用した学年・分掌会等の会議や職員研修の効率化、及び職場環境の整備を図る。	教職員アンケート「生徒と向き合える時間が確保されている」の肯定的評価の割合	80%	67%	84%	B			
		「共有」「協働」による組織的な業務改善や職場の活性化に取り組む。	コミュニケーションを図る中で風通しの良い職場風土を醸成し、相互の支援体制や協力体制を構築する。	教職員アンケート「日々の業務の中で充実感を得られていると感じる」教職員の割合	90%	88%	98%	B			

[k:評価]A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

※朱書き部分は、今年度変更したところ